

令和3年度第2回 横浜市陶芸センター指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 令和3年8月16日(月) 13時30分から15時00分まで
- 2 場 所 横浜市役所18階会議室さくら13
- 3 出席者 豊福 誠 委員長、加世田 恵美子 委員、花里 麻理 委員、古本 悦子 委員
- 4 傍聴者 なし
- 5 議事内容

議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 応募団体面接審査 <ol style="list-style-type: none"> (1) 提案者プレゼンテーション (2) 提案者に対するヒアリング 2 本審査 <ol style="list-style-type: none"> (1) 応募団体制限事項等の確認について (2) 審議及び採点
議事・ 委員意見 等	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 <ol style="list-style-type: none"> (1) 定足数の確認 委員数4名のうち4名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。 (2) 本委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜市本牧市民公園内の体験学習施設（横浜市陶芸センター）指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、「応募団体面接審査」は公開、「本審査」は非公開とした。 2 応募団体面接審査 シンリュウ株式会社による提案書のプレゼンテーションの後、委員による質疑を行った。 <主な質疑応答> (以下「・」: 委員、「→」: 提案者) ・様々な講座の実施や情報発信などの提案をされているが、職員体制は問題ないか。 →現行のスタッフで、毎日ローテーションで入っている。特別な講座等がある場合は、ローテーションとは別に、都度講師を呼んでいるため、問題なくこなせる。 ・講師の方々の年齢構成など、今後の方向性はあるか。 →3日間講座や2日間講座に外部から新しい講師を招聘している。陶芸センターの中の雰囲気、空気がよどまないように、新しい風を入れて若返りを図っていく構想で動いている。 ・情報発信について、デジタルアーカイブの貸出しや陶芸文化の拠点としての発信を提案されている。例えばホームページの更新のタイミングなど、どのような体制で行っていくのか →現状のホームページは、アクセシビリティ対応を完了したところ。今後、サーバーを管理している事業者と相談しながら、新しい情報に更新を行っていく。

・施設増築の提案がされている。それが作品保管のスペースについての増設という提案だけれども、今後利用者増を見込んだときに、それであと5年間対応していけるのか。

→今はとにかくもうスペースがない。天井に物を収納するスペースをつくり、色々なものを上のほうに持っていくなど行っているが、それでもまだ足りない状況である。

・シンリュウの財務状況について、このコロナ禍での会社としての増収増益の今後の見込みをどう考えているか。

→陶芸などの文化は非常に根強く日本の中にある。

現状では、例えば陶芸教室の観光地の体験教室なんていうのは、昨年の2倍程度の集客になっている。今後も、発展できるチャンスがあると考えている。

・講座は、人気によって集客の幅があるのか。

→今年度は、どの講座もほぼ100%の申し込みがある。ただし、コロナ禍のため直前でのキャンセルの多数ある。

・コロナ禍だから通常よりも募集人数を減らしているから、申込が100%になっているのか

→一日体験等に関しては半分に減らしている。自由作陶教室と貸室に関しては、定員はコロナ前のまま、部屋を2か所に分散して実施している。

・講師やアドバイザーについて、どのような基準で人材を選んでいるのか。

→大学の陶芸専攻や専門学校等で勉強された方、プロの陶芸家の下で3年以上経験がある方を、面接している。

・公募にかけているか

→去年は1度、公募にかけている。

・有形固定資産と減価償却累計額を比較したときに、ほぼもう償却が終わっている。今後、新たに買い替えや建て替えが出てくるのか

→今、信楽工場の集荷倉庫部分の建て替えを計画している。今のキャッシュフローの中で考えている。あとは、賃貸しているものが多いので、修繕にかかる費用がないというのが1つ特徴だと思っている。それと、うちで持っている建物がもともと古いものが多く、再取得をする必要がもうなくて、そこは減らしていく考え方も持っている。

・耐用年数がほとんど来ているので、この後長くは、補修をしながらでないと使っていけないと思うが、この先はそこも減らしていくのか。

→集約していきたい。会社の対策として、今下請にいろんな作業を出していく方針、製造部門でも大分変更してきた、流れとしてはそちらかなというふうに思う。

・講師の方たちが大勢いる。その人たちのコミュニケーション、つながりということをきちっとしておかないと、1つのセンターとしての教育のまとまりがちょっと不安を感じる、その辺はどういうふうに押さえているのか

→皆さん大体曜日ごとに、来ていただいている。朝ミーティング等をして、ほかの曜日でこういうことがあったとか、この講座でうまくいかなかったことがあったと皆さんとミーティングをしている。

・束ね役がどなたかがやっているのか

	<p>→副所長がやっている。</p> <p>・インターネットを使ったり、SNSを使ったりということも提案書に書いてありましたけれども、その具体的な方法は。</p> <p>→今はフェイスブックで時々上げているけれど、コロナの状況もあってなかなか上げ方も難しいと考えながら、今後、人員を増やすためにいろいろ陶芸技法の紹介とか、先生たちそれぞれ皆さん得意な技法とかがいろいろありますので、そういうのも紹介しながら、行っていくことを考えている。</p> <p>3 本審査</p> <p>(1) 応募団体について、応募団体の欠格事項のうち、市税等の滞納がないこと及び暴力団又は暴力団経営支配法人等ではないことが確認された旨を事務局から報告。</p> <p>(2) 提案書類及び面接審査の内容を踏まえ、委員による意見交換、各評価項目の採点を行った。</p> <p>【審査結果】</p> <p>・提案者：シンリュウ株式会社 総得点666点／880点（委員4名×持ち点220点）</p> <p>なお公募要項に、指定候補者及び次点候補者となるためには、選定評価委員会の定める最低基準点（加減点項目を除く評価基準項目の合計200点満点の6割以上）を満たすことが必要である旨の記載があり、4名全ての委員の採点がこの基準を満たしていることを併せて確認した。</p>
審査結果	<p>応募団体：シンリュウ株式会社を指定候補者として横浜市長に報告する。</p> <p>なお、審査結果及び講評は、本日の意見を集約し、委員長確認のうえ報告書にまとめる。</p>